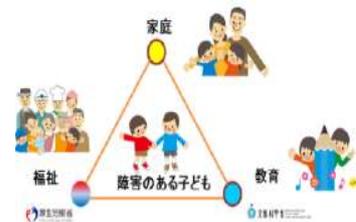


放課後等デイサービス スマートキッズ発達支援研究所便り「きらっと」10号 2020年10月1日
研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/lab/>

連携で進めるソーシャルスキル・トレーニング



所長 中村雅子

臨時休業そして自粛しながらの学校再開を経て、いつの間にか季節は秋を迎えました。

学校では、三密を避けながらも、運動会や学習発表会を工夫して実施するところも見られるようになってきました。仲間を応援したり、仲間と力を合わせて創り上げたりする喜びにひたりながら、子どもの心は、大きく成長していきます。放課後等デイサービスは、学校や家庭と共にこのような子どもの心の成長を支援していきたいと思っています。

臨時休業期間中も休まず開設した放課後等デイサービスは、感染防止に努めながら、同時に子どもたちのメンタルケアも大切にして活動を工夫してきました。また、臨時休業中も特例的に受け入れてくれた学校もありました。学校と放課後等デイサービスとの連携がスムーズに行われ、午前中は学校で過ごし、昼食から放課後等デイサービスで活動するという連携のできたケースもたくさんありました。そして、家庭で過ごした子どもたちも、電話で会話をしたり、パソコンを通じてオンライン療育を行ったりして、できる限り平常の生活を維持するようにと努めました。

子供たちが大人になるために欠かせないことは、仲間と共に力を合わせて成し遂げる体験です。互いに気持ちを合わせ、応援し合い、声をかけあう活動を通して、人間として成長していきます。感染症流行期は、何かと規制の多い日々でしたが、「できないこと」に目を向けるのではなく、少しでも「できること」に目を向け、放課後等デイサービスの活動を続けるようにしました。例えば、ある教室では、2メートルほどの疑似的な田んぼで一人一人稲刈りを行い、周りのみんなは見守り、全部刈り取れたら、大きな拍手をする、次の人に交代するという方法で、応援、交代、譲り合いなど集団活動でしか学べないスキルの習得を目的に療育活動を展開しました。その次の活動では、脱穀した米に見立てた小豆を一人一人が一合ずつ量り、米を研ぐ体験活動をしました。自立した生活に欠かせない家事スキルの習得を目的とした活動です。放課後等デイサービスのこうした活動でよりよく生きるためのスキルを習得し、自信をつけ、家でやって、家族にもほめてもらったら、間違いなく子どもは成長するでしょう。

ソーシャルスキルは、個別のトレーニングも重要ですが、それだけでは日常生活で生かすことができない（汎化できない）という面もあり、先ほどのような実際の集団活動と併用したり、日常で繰り返したりすることが有効です。そのためにも、家庭、学校、放課後等デイサービスの連携が欠かせません。

社会に出ると、ソーシャルスキルの未熟さゆえに困難を抱え悩んでいる方々が少なくありません。連携の中でソーシャルスキルを身に付けていくことが、きっと将来役に立つことでしょう。

中央教育審議会初等中等教育分科会の下に開かれた「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」（第11回、令和2年7月17日）においても、障害のある子供の学びの場の整理・連携強化が強調されています。障害の有無にかかわらず誰もが共に学び、共に生きる共生社会を目指して、トライアングル・プロジェクトが子どものために推進されるよう、本研究所も力を合わせて頑張っていきたいと思います。